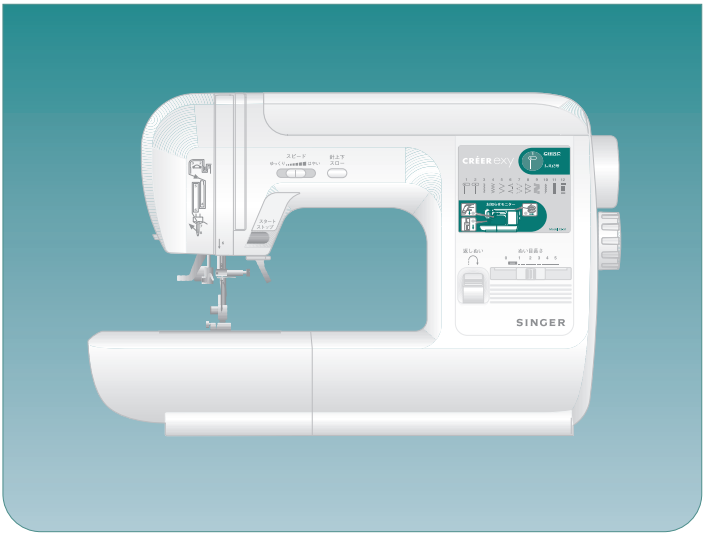
CRÉER exy

使用の手びき

型式：CE-51



SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、
この「使用の手びき」をご使用の前に必ず
お読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長く
ご活用ください。

このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用電子ミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

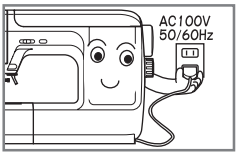
安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

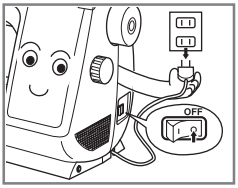
このマークは、禁止を表します。

⚠ 警告　感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Ｖ以外では使用しないでください。

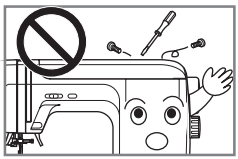


2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
   ・ミシンのそばを離れるとき。
   ・ミシンを使用したあと。
   ・ミシン使用中に停電したとき。

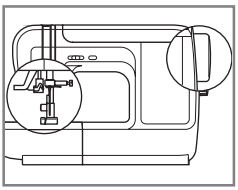


⚠ 注意　感電、火災、けがなどの原因となります。

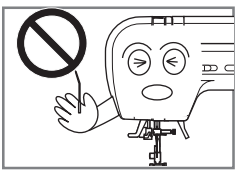
1.お客さま自身での分解、改造はしないでください。



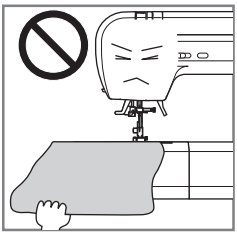
2.ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ハズミ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。



3.曲がった針はご使用にならないでください。

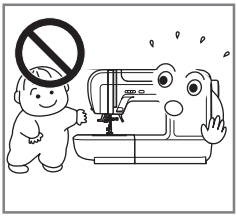


4.縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。



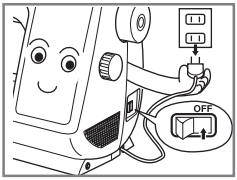
⚠注意 感電、火災、けがなどの原因となります。

5.お子様がご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。

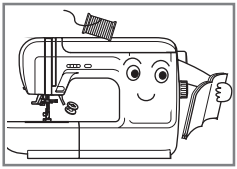


6.フットコントローラー（別売り）の上に物をのせないでください。

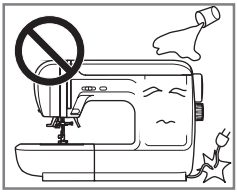
7.使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。



8.上糸、下糸の交換をするときは、使用の手びきの手順に従って正しく行ってください。

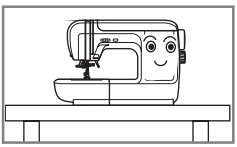


9.ミシン、フットコントローラー（別売り）に以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。

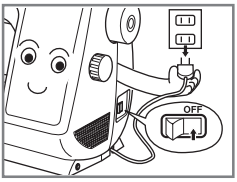


・正常に作動しないとき。
・落下などにより破損したとき。
・水に濡れたとき。
・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
・異常な臭い、音がするとき。
・中に異常が入ったとき。

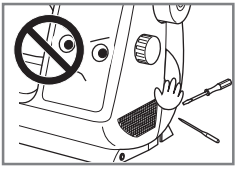
10.ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。



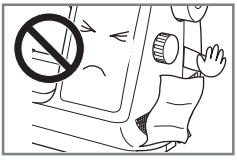
11.電源プラグを抜くときは、電源スイッチを切り、プラグを持って引き抜いてください。



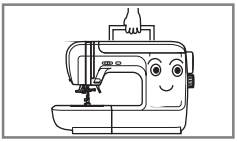
12.換気口やスキマに異物を入れたり、ドライバーを差し込んだりしないでください。



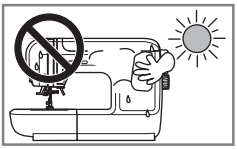
13.ミシンの通気口ををふさがないでください。



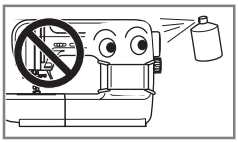
14.ミシンを持ち運ぶときは、必ずハンドルを持ってください。



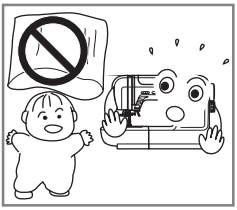
15.直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。



16.スプレー製品などを使った部屋では使用しないでください。

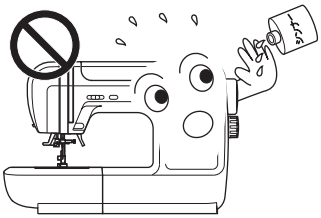


17.袋類は、お子様がかぶらないように、お子様の手の届かないところに保管するか、廃棄してください。

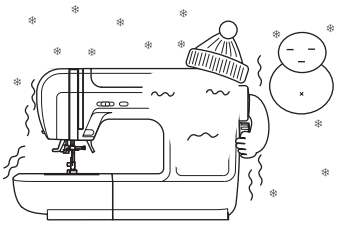


ミシンの取り扱い

● シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



● 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。

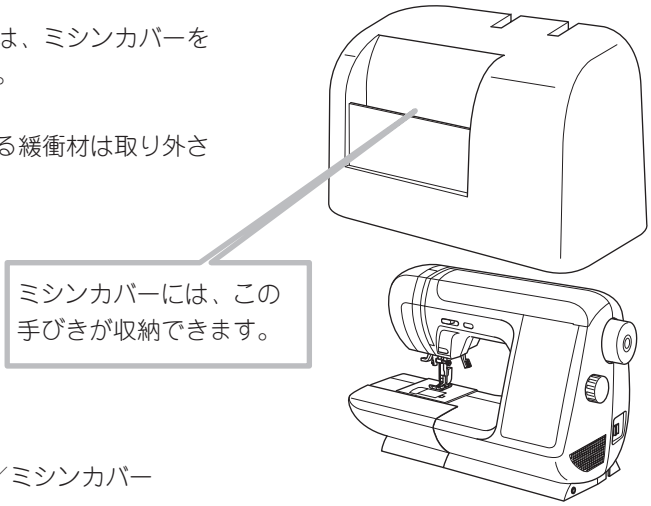


シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

ミシンカバー

ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。

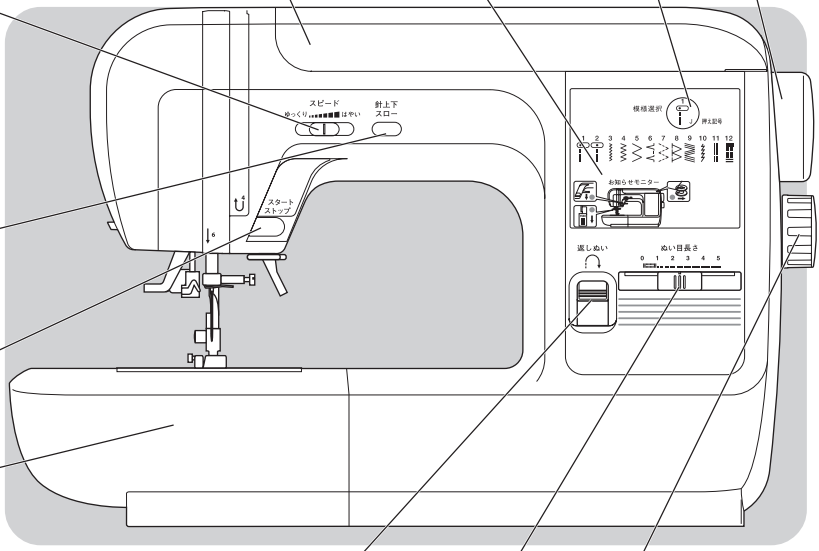
ミシンカバーの中にある緩衝材は取り外さないでください。

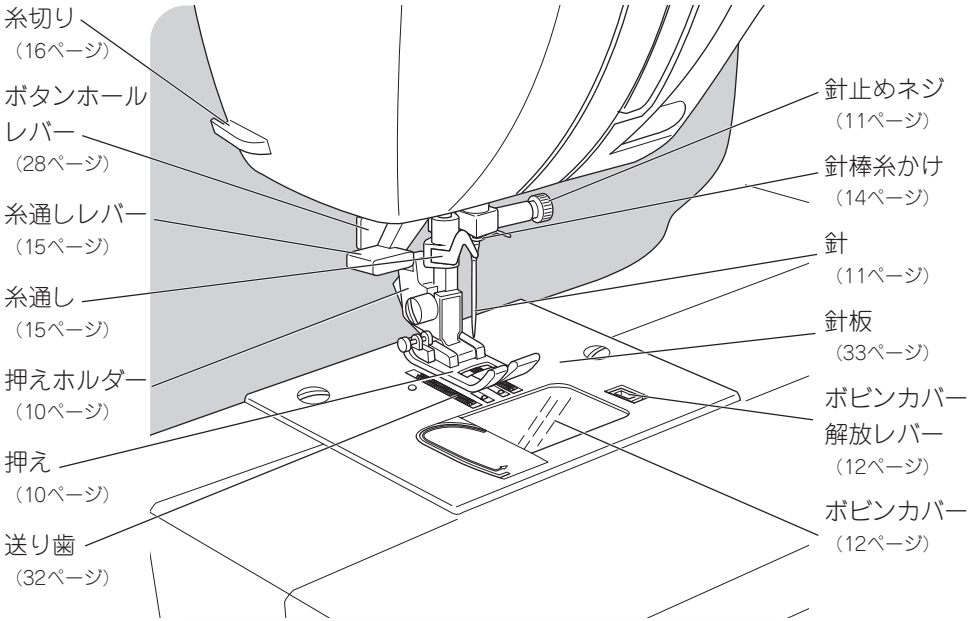


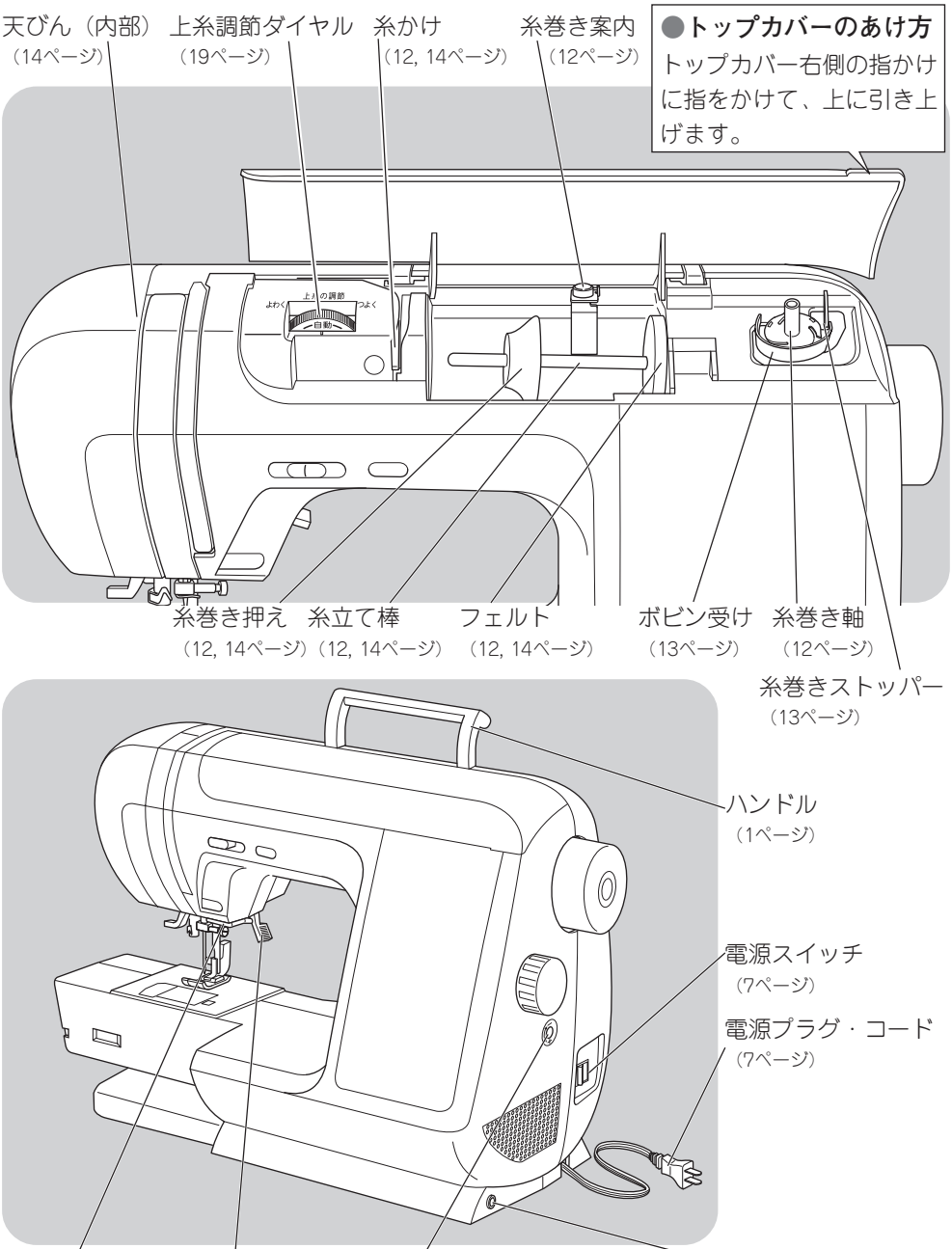
目次

安全にご使用いただくために ..... 表紙裏
ミシンの取り扱い 2
ミシンカバー 2
各部のなまえ 4
付属品・補助テーブル 6
電源を入れましょう 7
フットコントローラーのご案内（別売り） 7
各部のはたらき 8
お知らせモニター 8
模様の選び方／ぬい目長さの調節 9
押えと押えホルダーの取りかえ方 10
押えの取りかえ方 10
押えホルダーの外し方 10
糸と針の選び方 11
針の取りかえ方 11
下糸の準備 12
ボビンの取り出し方 12
下糸の巻き方 12
ボビンのセット 13
上糸の準備 14
上糸のかけ方 14
糸通しの使い方 15
ぬってみましょう 16
ぬい始め〜ぬい終わり 16
返しぬい 17
ぬい方向の変え方 17
薄い布、伸縮性のある布地の場合 17
厚地のぬい始め 18
段ぬい 18
下糸を長くとってぬい始めたいとき 18
糸調子の調節 19
直線ぬい（地ぬい） 20
ジグザグぬい 20
伸縮ぬい 21
伸縮強化ぬい 21
ふちかがりぬい（たち目かがり） 22
まつりぬい（ブラインドステッチ） 23
点線ジグザグぬい（つくろいぬい） 24
アップリケ 24
ピンタック 25
フリーアームぬい 25
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき） 26
つき合わせ 26
脇あき 27
ボタンホールぬい 28
模様の形の調整 30
ミシンの仕様 31
ミシンのお手入れ 32
ミシン表面の掃除 32
ボビンケースの掃除 32
外がまと送り歯の掃除 33
こんなときには 34
修理サービス要領 35
お問い合わせまたはご相談先
（純正部品の購入方法） 36
保証書 ..... 裏表紙

各部のなまえ


スピード調節つまみ
（8ページ）
トップカバー
（5ページ）
お知らせモニター
（8ページ）
模様表示窓
（9ページ）
ハズミ車
（10, 11ページ）
針上下・クイックスローボタン
（8ページ）
スタート・ストップボタン
（8ページ）
補助テーブル
（6ページ）
返しぬいボタン
（8ページ）
模様選択ダイヤル
（9ページ）
ぬい目長さ調節つまみ
（9 ページ）

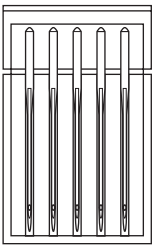

糸切り
（16ページ）
ボタンホールレバー
（28ページ）
糸通しレバー
（15ページ）
糸通し
（15ページ）
押えホルダー
（10ページ）
押え
（10ページ）
送り歯
（32ページ）
針止めネジ
（11ページ）
針棒糸かけ
（14ページ）
針
（11ページ）
針板
（33ページ）
ボビンカバー解放レバー
（12ページ）
ボビンカバー
（12ページ）


天びん（内部）
（14ページ）
上糸調節ダイヤル
（19ページ）
糸かけ
（12, 14ページ）
糸巻き案内
（12ページ）
●トップカバーのあけ方
トップカバー右側の指かけに指をかけて、上に引き上げます。
糸巻き押え
（12, 14ページ）
糸立て棒
（12, 14ページ）
フェルト
（12, 14ページ）
ボビン受け
（13ページ）
糸巻き軸
（12ページ）
糸巻きストッパー
（13ページ）
ハンドル
（1ページ）
電源スイッチ
（7ページ）
電源プラグ・コード
（7ページ）
糸通し糸切り
（15ページ）
押え上げレバー
（8ページ）
バランス調整ネジ
（30ページ）
フットコントローラー
差し込み口（7ページ）

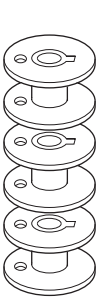
付属品・補助テーブル

●付属品

付属品は補助テーブルの中に入っています。

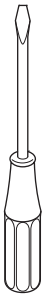


針ケース（5本入り）
11番、14番、16番
ニット針（黄色）11番、14番



ボビン

ブラシ



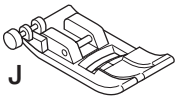
ドライバー

針板用
ドライバー

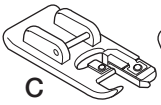
シームリッパー

●押え

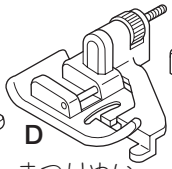
押えには、わかりやすいようにそれぞれ記号がついています。



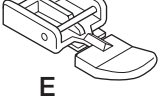
J
ジグザグ押え
（ミシンについています）



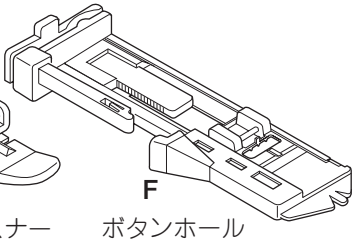
C
ふちかがり押え



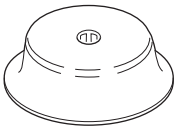
D
まつりぬい（ブラインド）押え



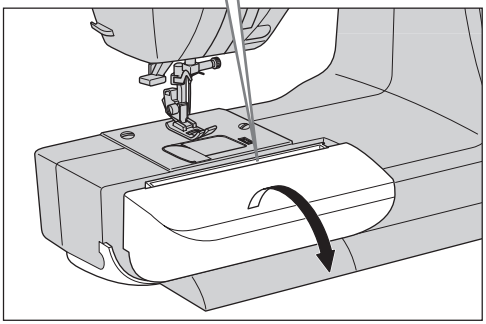
E
ファスナー押え



F
ボタンホール押え



糸巻き押え
（ミシンについています）



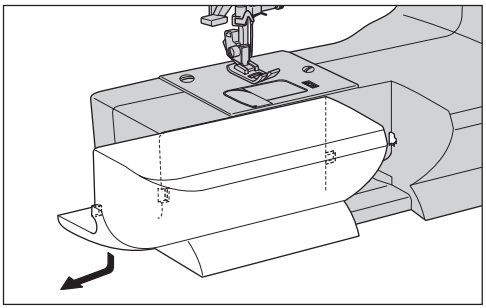
●補助テーブルの開け方

テーブル手前の角に指をかけ、手前に倒します。

●補助テーブルの取り外し方

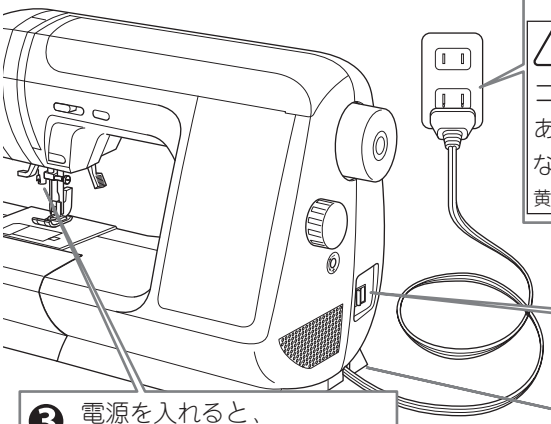
テーブルの左下に指をかけて、左に引きます。

取り付けは、テーブルのツメがミシンに入るように合わせ、右にすべり込ませます。



電源を入れましょう

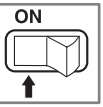
ミシンを安定した場所に置きます。



❶ 電源コードを引き出し、プラグをコンセントに差し込みます。

⚠警告：感電、火災を防ぐために；
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。
黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

❷ 電源スイッチを入れます。

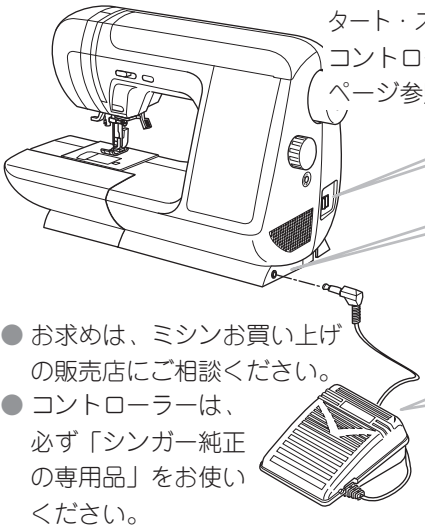


❸ 電源を入れると、ランプが点灯します。

● コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、はなしてください。

フットコントローラーのご案内（別売り）

別売りのフットコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。
コントローラーを接続するとスタート・ストップボタン（次ページ参照）はきかなくなります。



❶ 電源スイッチを切ります。

❷ コントローラーのプラグをミシンの差し込み口に差し込みます。

❸ コントローラーを足元に置き、電源を入れなおします。
ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。
ペダルをはなすとストップします。
スピード調節つまみ（次ページ参照）は、最高スピードを調節します。速くしたいときは、右にセットしてください。
押えを下げないとスタートしません。（次ページ参照）

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。
● コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。

⚠警告；感電、火災を防ぐために；
コントローラーは、落としたり、座ブトンの下において使用しないで下さい。

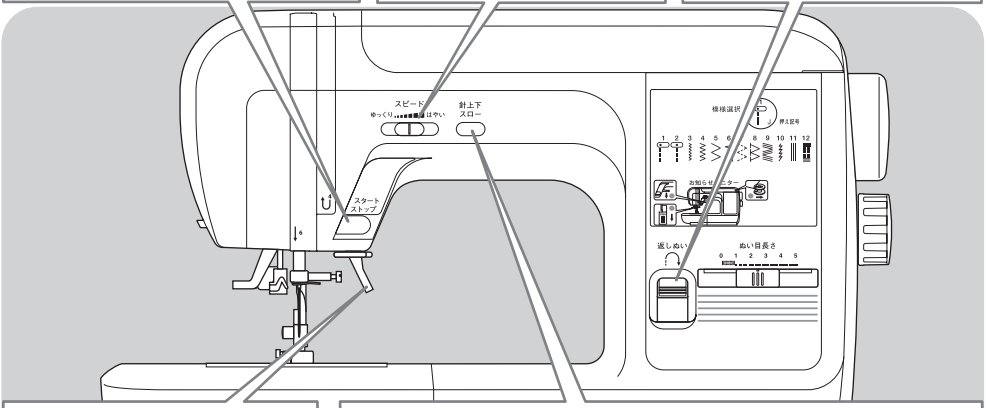
⚠注意：ケガ防止のために；
コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行って下さい。

各部のはたらき

●スタート・ストップボタン
1度押すとスタートし、もう1度押すとストップします。
ぬい始めはゆっくり回ります。

●スピード調節つまみ
右にスライドさせると速く、左にスライドさせるとゆっくりになります。

●返しぬいボタン
このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。離すと止まります。



●押え上げレバー
このレバーで押えの上げ下げをします。押えが上がっているときは、お知らせモニターが点灯し、ミシンはスタートしません。（下糸巻きを除く）

●針上下・クイックスローボタン
止まっているとき：針上下ボタン
ミシンが止まっているときにこのボタンを押すと、針の停止位置が上下に切りかわります。
上位置から続けて2回押すと1針ぬいになります。
ぬっているとき：クイックスローボタン
ぬいの途中で1度押すと、ゆっくりぬいになります。
もう1度押すと、もとのぬいスピードに戻ります。

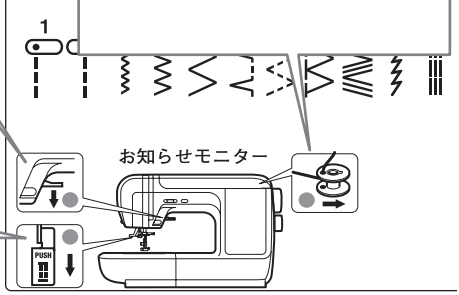
■お知らせモニター

ミシンの状態をランプがお知らせします。

●押え上げレバー
押え上げレバーが上がっていると、このランプが点灯します。この状態のままスタートさせてもミシンは動かず、ランプが点滅しますので、レバーを下げてください。
ボタンホールぬいをぬい終わったときにも点滅します。
（29ページ参照）

●ボタンホールレバー
ボタンホールぬいで、ボタンホールレバーが下げられていないときや、ボタンホール押えが正しく取り付けられていないときに点灯します。（28ページ参照）

●糸巻き軸
糸巻き軸が右に押されて、下糸巻きができる状態になると点灯します。（12ページ参照）

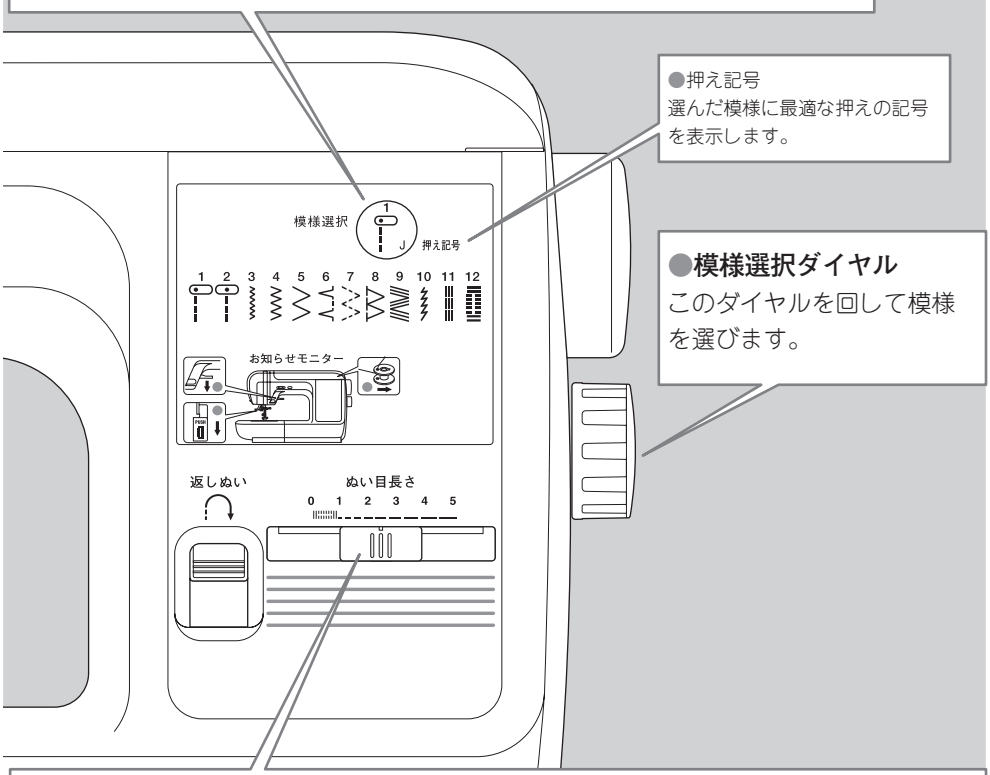


模様の選び方／ぬい目長さの調節

●模様表示窓

ミシンの前面に表示されている模様の中から、模様選択ダイヤルを回して、お望みの模様を選びます。選ばれた模様が、この窓に表示されます。

> **⚠ 注意：ケガ防止のために；**
> 模様を選ぶときは、必ずミシンを止め、ハズミ車を手前に回して、針を布から上げてください。



●押え記号
選んだ模様に最適な押えの記号を表示します。

●模様選択ダイヤル
このダイヤルを回して模様を選びます。

●ぬい目長さ調節つまみ

大きい数字に合わせるほど、長いぬい目になります。

0 ボタンホールや密着ぬい
1
2
3
4
5

12 模様12のとき、ぬい目長さは、0〜1の間に合わせます。

8 9 10 11 模様8〜11のとき、ぬい目長さは、5に合わせます。

押えと押えホルダーの取りかえ方

⚠注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

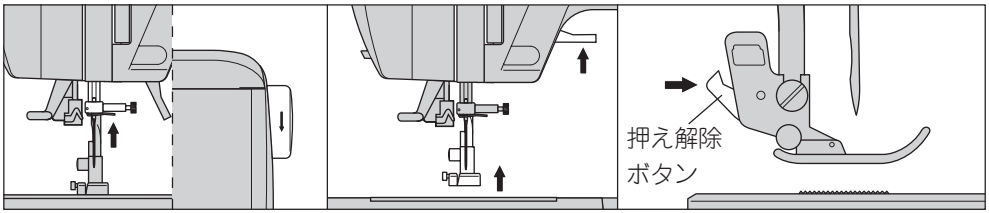
■押えの取りかえ方

押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが20ページ以降に示してあります。

❶ ハズミ車を手前に回して、針を一番上に上げます。

❷ 押え上げレバーを上げます。

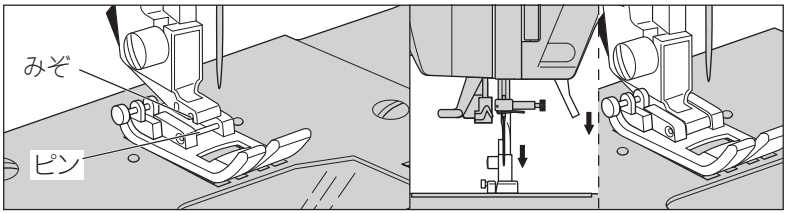
❸ 押え解除ボタンを押します。



押えが外れます。

❹ 交換する押えのピンを押えホルダーのみぞの真下に合わせます。

❺ 押え上げレバーを下げます。



ピンがみぞにはまります。
もし、完全にはまらないときは、押え解除ボタンを押してみてください。

■押えホルダーの外し方

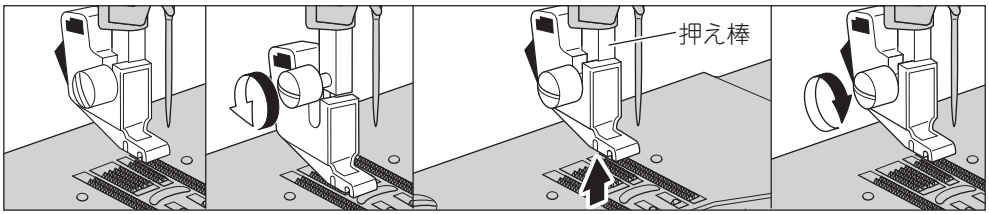
お手入れをするときや、別売りの特殊押えを取り付けるときは、押えホルダーを外します。

❶ 押えを外します。

❷ 押えホルダー止ネジをゆるめます。

❸ 取り付けるときは、ホルダーを押え棒の下から突き当たるまで持ち上げます。

❹ ネジをしめます。



前項「押えの取りかえ方」参照

ホルダーが外れます。

糸と針の選び方

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類		糸の番号（番手）	針の番号	模様（直線）とぬい目長さ
薄地	薄地ジョーゼット、ボイル、オーガンディー、タフタ、絹布など。	綿　80〜100 絹　60〜80 化繊糸　80〜100	9〜11番	ぬい目長さ 1〜3
普通地	ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、薄手のコーデュロイ、サテン、別珍、一般服地など。	綿　50〜80 絹　50 化繊糸　50〜80	11〜14番	ぬい目長さ 2〜4
厚地	ギャバジン、ツィード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿　30〜50 絹　50 化繊糸　30〜60	14〜16番	ぬい目長さ 3〜5
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	化繊糸　50〜80 絹　50 ニット用糸	11〜14番 ニット用針	ぬい目長さ 5

針の取りかえ方

⚠注意：ケガ防止のために；

必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

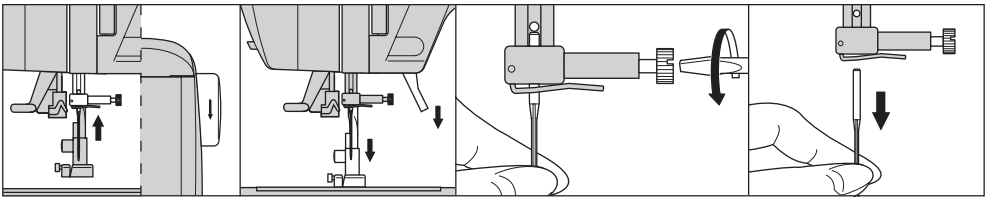
針板の上に紙や布をしいておくと、ミシンの中に針を落とす心配がありません。

❶ ハズミ車を手前に回して、針を一番上に上げます。

❷ 押え上げレバーを下げます。

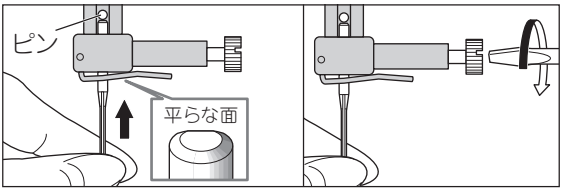
❸ 針を左手で持ちながら、針止めネジをゆるめます。

❹ 針をはずします。



❺ 新しい針の平らな面を後ろにして、ピンにあたるまで差し込みます。

❻ 付属のドライバーでネジをしっかりしめます。

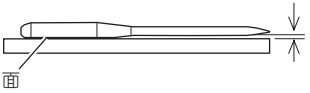


注意：市販の大きなドライバーなどであまり強くしめつけないでください。故障の原因となります。

⚠注意：ケガ防止のために；

- 針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。
- 曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

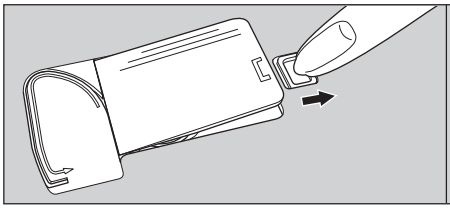
取り付け前には、針の平らな面を下にして針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



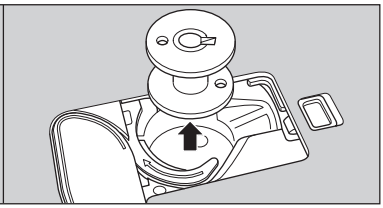
下糸の準備

■ボビンの取り出し方

❶ ボビンカバー解放レバーを右に押して、ボビンカバーを取り外します。



❷ ボビンを取り出します。

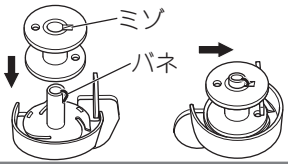


お願い：
ボビンは、専用のものをお使いください。

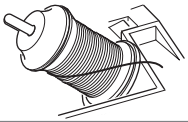
■下糸の巻き方

❶ トップカバーをあけます。

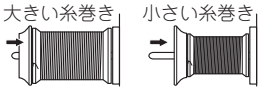
❷ ボビンのミゾが、糸巻き軸のバネに合うように、ボビンを軸に差し込み、右に押します。



❸ 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。

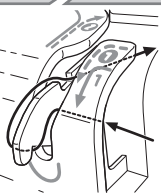


糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。



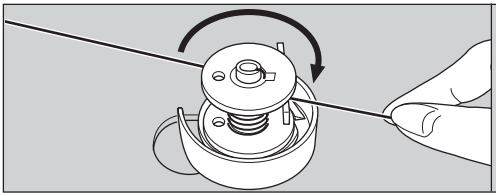
❹ 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。

❺ 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。

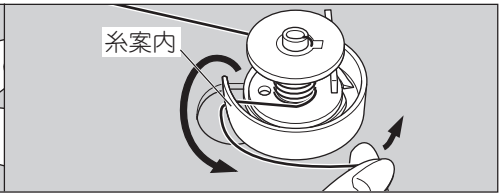


❻ 糸を右に引いて、糸巻き案内の下からかけ、案内皿の間に後ろから左回りでかけます。

❼ 糸がたるまないようにしながら、ボビンに右回りに4、5回、巻き付けます。



❽ ボビン受けの糸案内にかけ、左回りに糸を引き、糸切りで切ります。

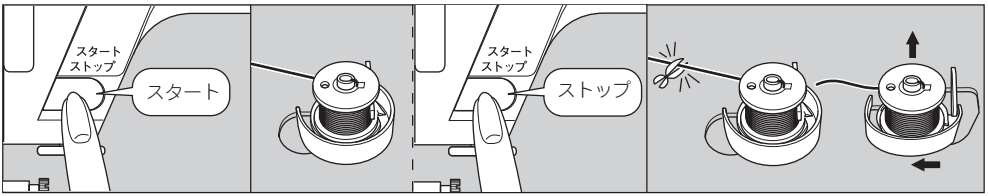


左回りに引くだけで、糸が糸切りにかかり切れます。

❾ ミシンを スタート させます。

❿ 糸が糸巻きストッパーにあたって回らなくなるまで巻かれたら、ミシンをストップさせます。

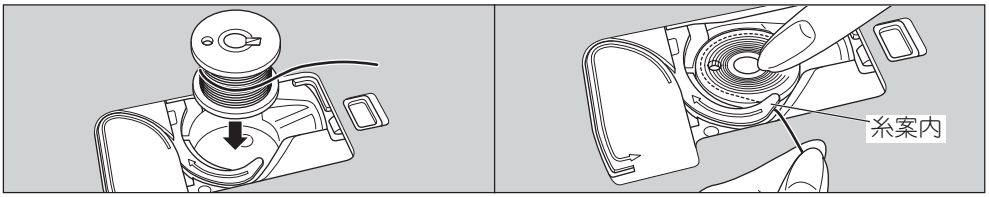
⓫ 糸を切り、糸巻き軸を左に戻して、ボビンを外します。



■ボビンのセット

❶ ボビンを、糸が左回りになるようにして、ボビンケースに入れます。

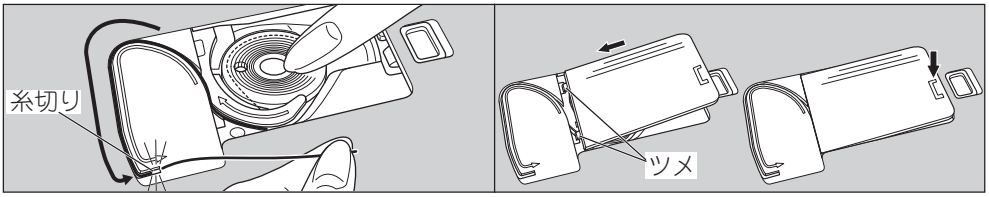
❷ 右手で、ボビンをかるく押え、左手で、糸を糸案内に引っかけます。



糸の方向を間違えないように注意してください。

❸ みぞに沿って、上から下に通し、右に引いて、糸切りで切ります。

❹ ボビンカバー左側のツメをみぞに差し込み、右側を軽く押して取り付けます。



●お知らせ：

このミシンは、下糸を引き上げなくても、このままでぬい始めることが出来ます。

もし、下糸を引き上げてぬいたいときは、18ページを参照してください。

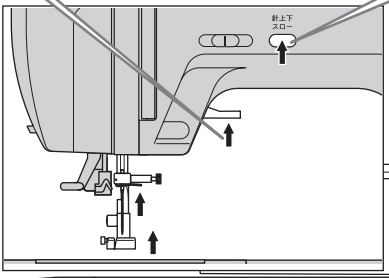
上糸の準備

■上糸のかけ方

順序よく、正しくかけてください。

❶ 押え上げレバーを上げます。

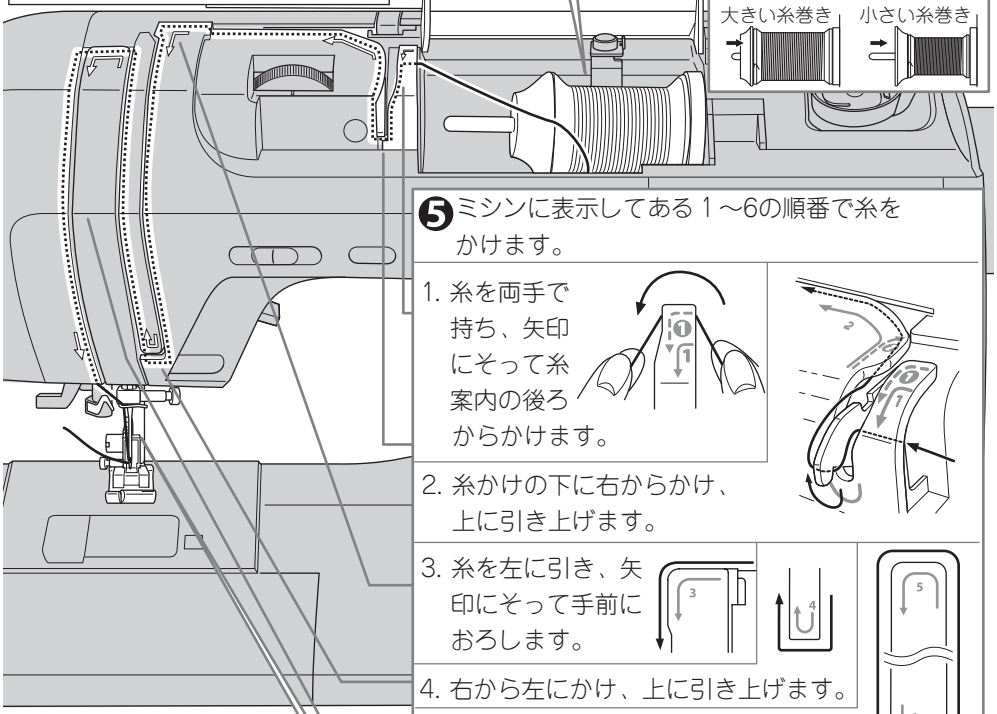
❷ 針上下ボタンで針を上に上げます。



❸ トップカバーをあけます。

❹ 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。
フェルトを必ずセットしてください。

糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。



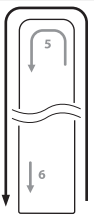
❺ ミシンに表示してある 1 ～6の順番で糸をかけます。

1. 糸を両手で持ち、矢印にそって糸案内の後ろからかけます。

2. 糸かけの下に右からかけ、上に引き上げます。

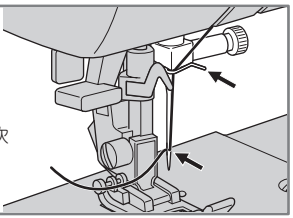
3. 糸を左に引き、矢印にそって手前におろします。

4. 右から左にかけ、上に引き上げます。



5,6. 矢印にそって右から左にかけ、下におろしてきます。（中の天びんに糸がかかります。）

❻ 針棒糸かけにかけ、針穴に前から通します。
糸通しを使う場合は、次ページを参照ください。



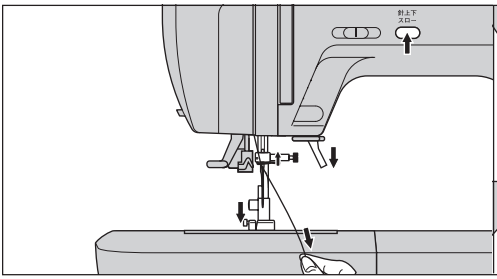
■糸通しの使い方

糸通しは、11～16番の針、
50～100番の糸に使えます。

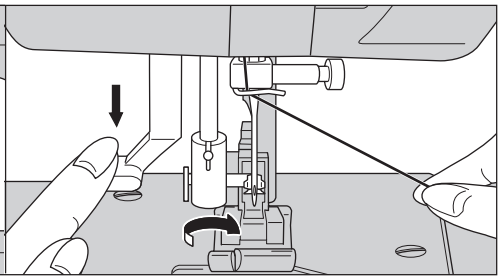
⚠注意：ケガ防止のために；
針の下に指を入れないでください。ケガの原因となります。
糸通しレバーを下げたとき、ハズミ車は回さないでください。
ケガや故障の原因となります。

❶ 糸を針棒糸かけから補助テーブル手前くらいまで引き出して、押え上げレバーを下げます。

❷ 糸通しレバーを下げて、止めます。
レバーは、下がったまま止まります。



針が上位置にないときは、針上下ボタンで上に上げます。

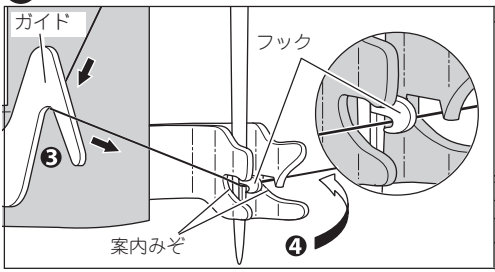


糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

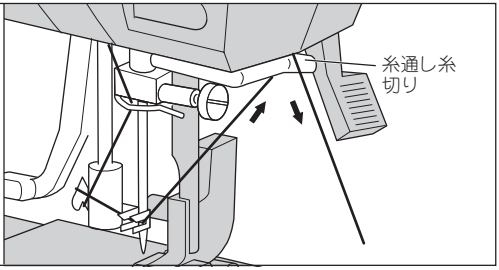
❸ 糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいてきます。

❹ 糸を案内みぞに入れます。

❺ 糸を糸通し糸切りに後ろから手前にかけて切ります。



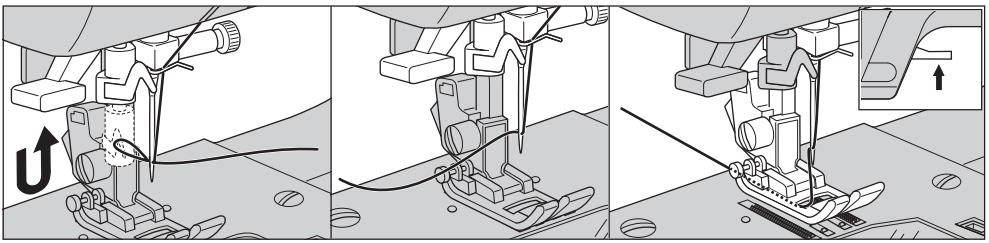
糸がフックに引っかかります。



❻ 糸通しレバーをもう一度押し下げて、離します。

❼ 糸はしを引き出します。

❽ 押えを上げ、上糸を押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。



糸通しが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

ぬってみましょう

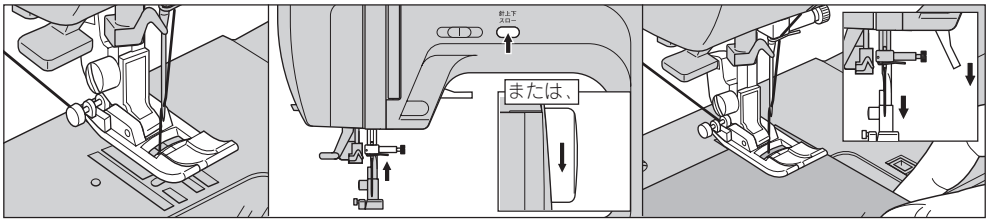
直線ぬい（1）をぬって見ましょう。

■ぬい始め～ぬい終わり

❶ 押えを確かめます。（ジグザグ押え）

❷ 針上下ボタンを押すか、ハズミ車を手前に回して、針を上に上げます。

❸ 布地を入れ、押えを下げます。

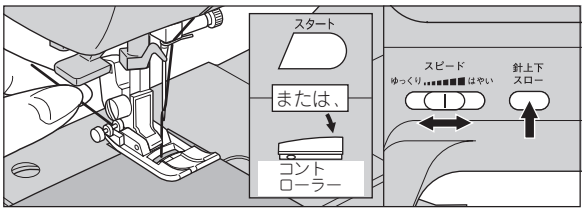


押えの取りかえ方は10ページ

押え上げレバーのお知らせモニターが消えます。

❹ 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。

ぬいながらスピードを調節できます。また、ぬいの途中でクイックスローボタンを押すとゆっくりぬいになります。



少しぬったら糸をはなします。

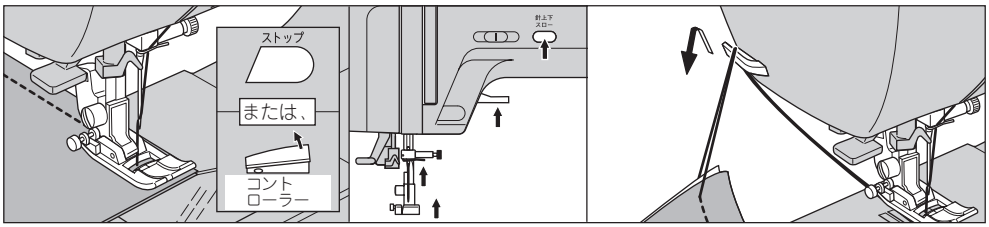
⚠注意：ケガ防止のために；

- 針先に十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

❺ 終わりまで来たら、ストップします。

❻ 押えを上げます。（針下停止のときは、針も上げます。）

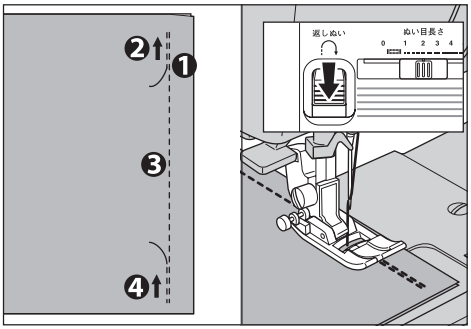
❼ 布を引き出し、糸を糸切りに後ろから手前にかけて切ります。



■返しぬい

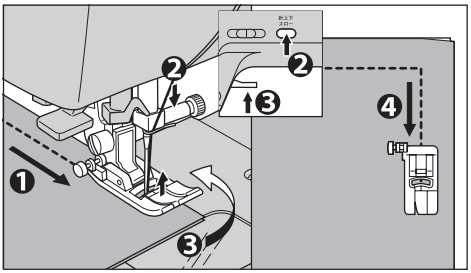
ぬい目のほつれを防ぐため、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。

❶ 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
❷ 返しぬいボタンを押して、4～5針返しぬいをします。
❸ スタートボタンを押して、布地のはしまでぬい進めます。
❹ ぬい終わりに、もう一度返しぬいボタンを押します。



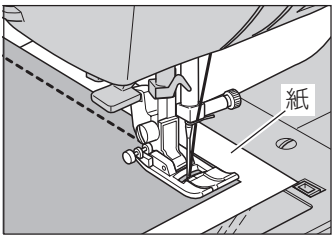
■ぬい方向の変え方

❶ 布地の角まで来たら、ストップします。
❷ 針を下げ、布に刺します。
針上下ボタンを押すか、ハズミ車を手前に回します。針上下ボタンで下位置にすると、以後の針停止位置は下になります。
❸ 押えを上げ、針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
❹ 押えを下げて、続きをぬいます。



■薄い布、伸縮性のある布地の場合

裏に紙などをしいてぬいます。ぬい終わったら、紙を取り除きます。

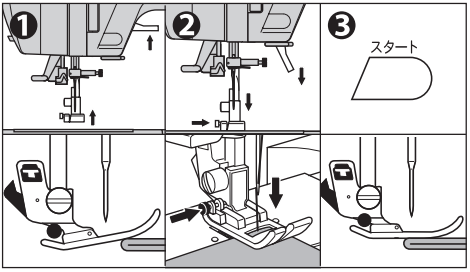


■厚地のぬい始め

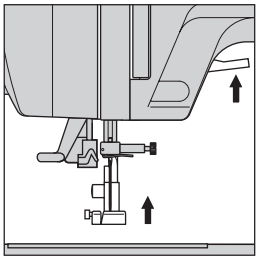
❶ 厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないときは、押えをいったん上げます。

❷ ジグザグ押えの左側にある黒いボタンを押しながら、押え上げレバーを下げます。

❸ ぬいをスタートさせます。
押えの傾きが固定されて布が送られます。
ぬい進むと、自動的に固定解除されます。

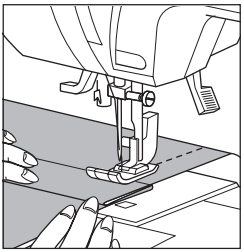


● 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。



■段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

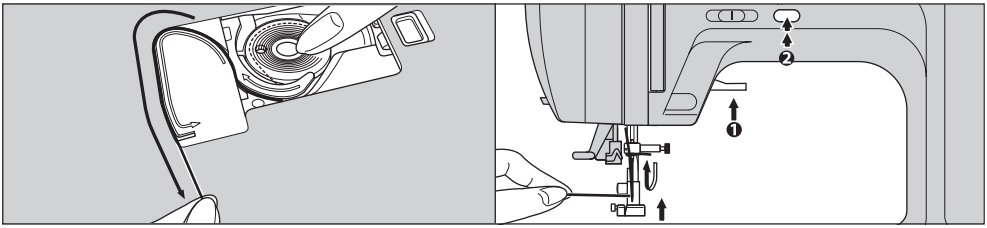


■下糸を長くとってぬい始めたいとき

下糸を長くとってぬい始めたいときは、次のようにして下糸を引き上げておきます。

❶ 13ページの「ボビンのセット」を見ながらボビンを入れ、糸をみぞに通します。
このとき、糸は切らないでください。

❷ 押えを上げ、上糸をかるく持ちながら、針上下ボタンを 2 回続けて押します。

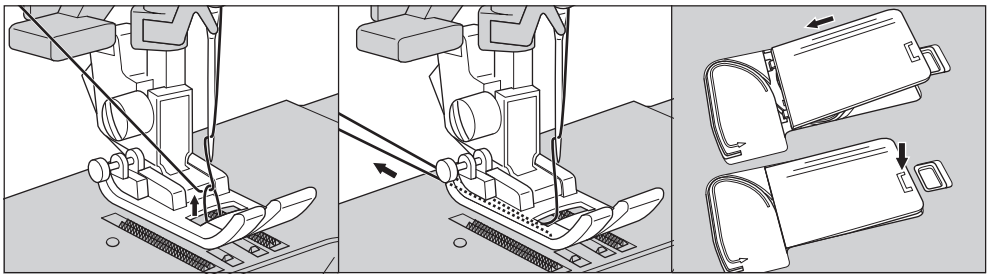


はずみ車が手前に 1 回転します。

❸ 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。

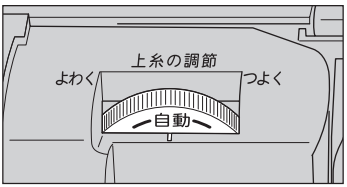
❹ 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。

❺ ボビンカバーを取り付けます。（13ページ参照）



糸調子の調節

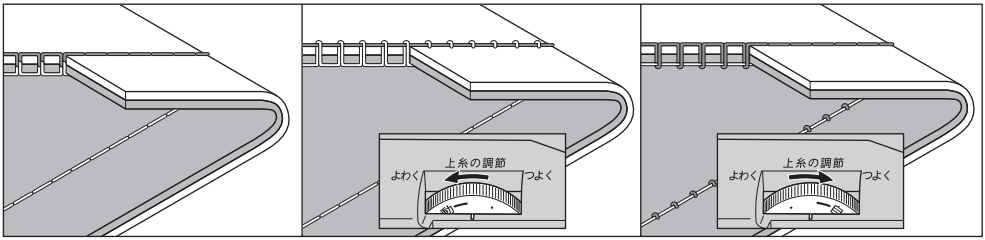
通常、上糸調節ダイヤルを「自動」に合わせると、正しい糸調子になるよう調節されています。
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合は、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。



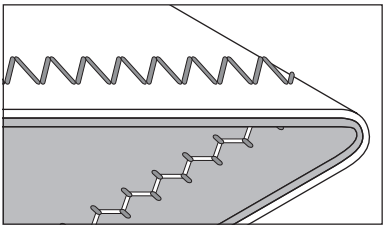
●正しい糸調子
上糸と下糸が布地のほぼ中央で結び目を作ります。

●下糸が表側に出ているとき
“よわく”の方向に回します。

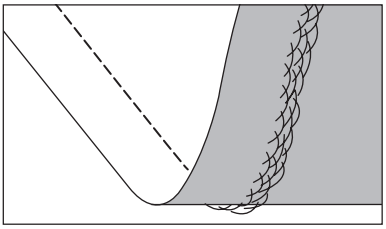
●上糸が裏側に出ているとき
“つよく”の方向に回します。



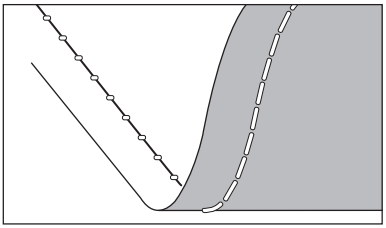
●ジグザグぬいの糸調子
ジグザグぬいの場合は、直線ぬいのときより上糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出るようにしますと、きれいにぬえます。



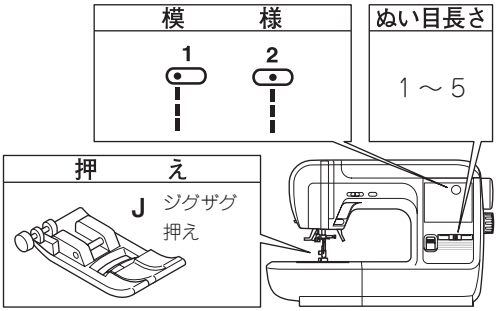
●こんな場合は…
図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようになるときは、上糸の通し方（とくに、上糸調節装置への）が違っています。14ページをご覧の上、正しくかけ直してください。

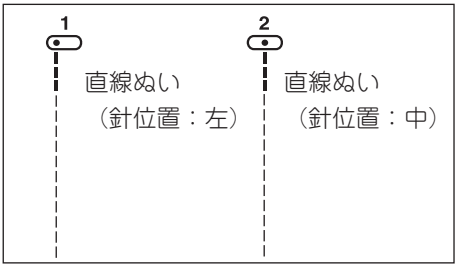


また、上糸調節ダイヤルを「よわく」に回しても、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンのセットの仕方が違っています。13ページをご覧の上、正しくセットし直してください。



直線ぬい（地ぬい）





布地に合わせて、模様を選びます。

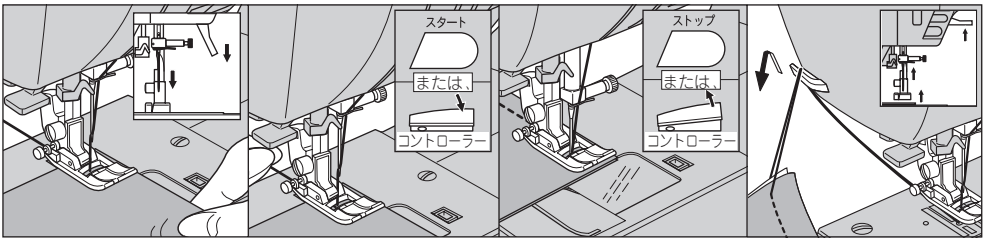
針位置：左は端ぬいに適しています。

❶ 布を入れ、押えを下げます。

❷ 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。

❸ ぬい終わりまできたら、ストップさせます。

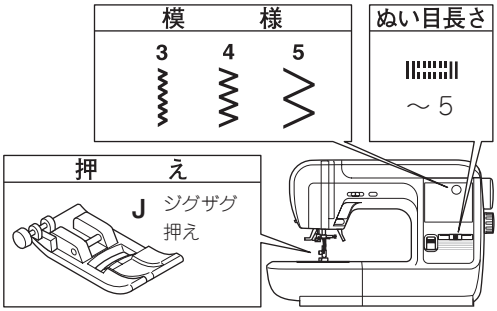
❹ 押えを上げ、糸を切ります。



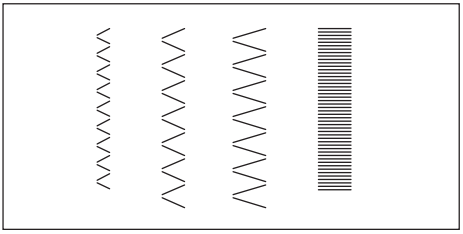
ぬっている間、手は布にかるくそえるようにします。

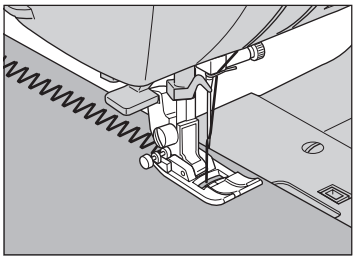
針下停止のときは、針も上げます。

ジグザグぬい

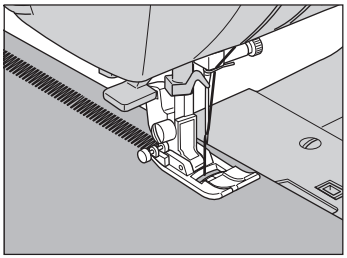


布地のはぎあわせやふちかがり、アップリケなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。

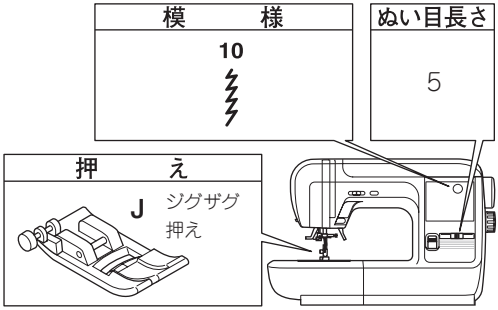




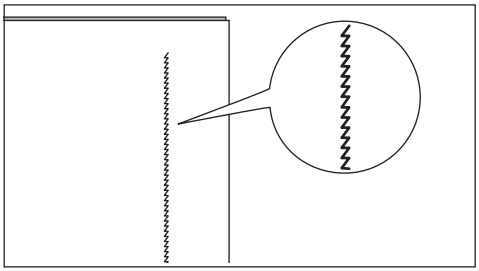
ぬい目長さを“▮▮▮▮▮▮▮”に合わせると密着ぬいになります。



伸縮ぬい



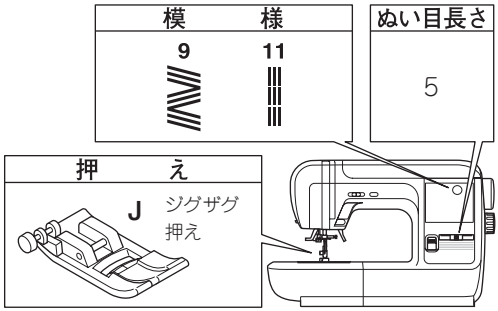
伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。



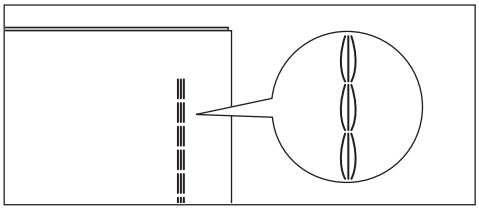
● 伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

ご注意：
伸縮ぬい、伸縮強化ぬいをぬうときは、ぬい目長さは、“5”に合わせてください。それ以外では、ぬい模様がくずれたり、ぬい音が高くなったりします。

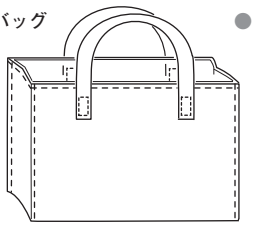
伸縮強化ぬい



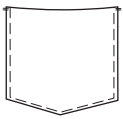
直線とジグザグの3重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



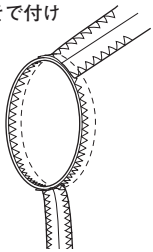
●バッグ



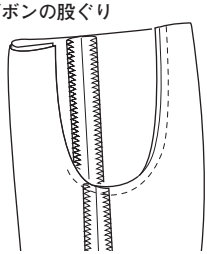
●ポケット



●そで付け

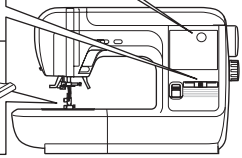


●ズボンの股ぐり

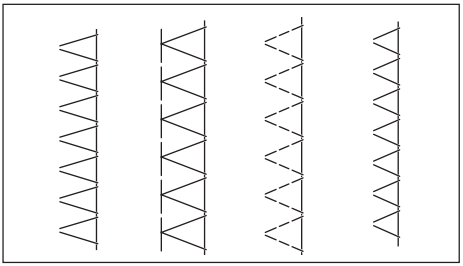


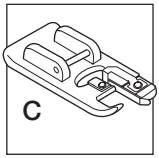
ふちかがりぬい（たち目かがり）

模様	5	8	4	7
ぬい目長さ	2〜5	5	1〜3	
押え	C ふちかがり押え		J ジグザグ押え	



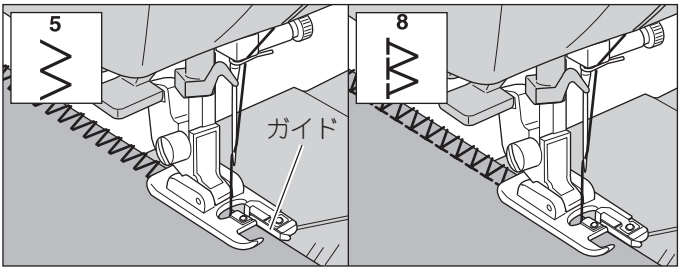
あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。





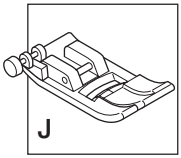
ふちかがり押えを使う場合：
布はしを押えのガイドにあて、針が布はしいっぱいに落ちるようにしてぬいます。

⚠注意：ケガ防止のために；
ふちかがり押えは、必ず（5）と（8）だけにお使いください。
ほかの模様では針が押えにあたり危険です。



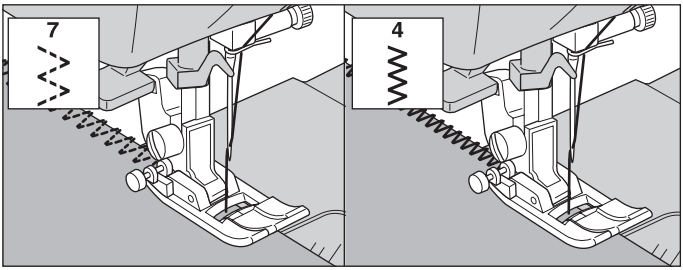
たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬいです。



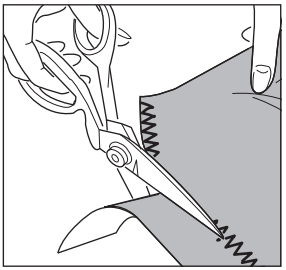
ジグザグ押えを使う場合：
針が布はしぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。

あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬいはしを切り落とす方法もあります。



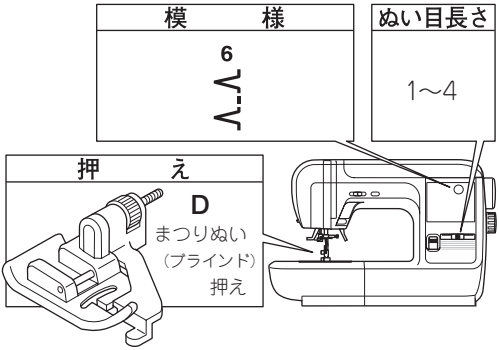
厚地、伸縮性のある布に利用します。

小さい幅のジグザグでかがるときに使います。

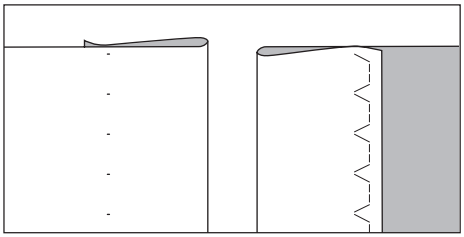


この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

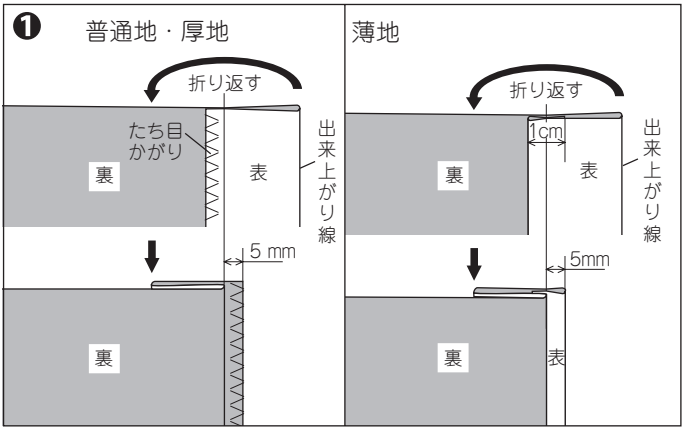
まつりぬい（ブラインドステッチ）



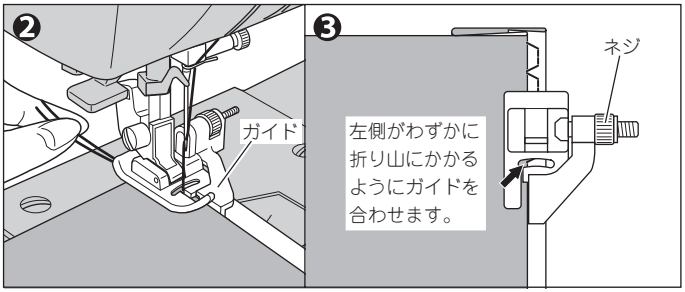
布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。

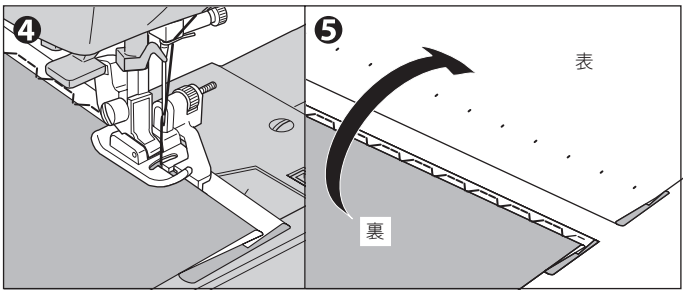


❶布を出来上がり線で折り、図のように布端が5mm出るように折り返します。
薄地の場合、布端をあらかじめ1cm中に折り込んでから、5mm出るように折り返します。
ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。

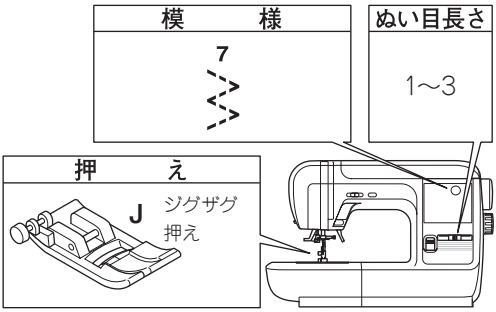


❷折り山を押えのガイドにあてます。
❸針が最も左側にきたときに折り山にわずかにかかるようにガイドの位置を調節します。
ネジを手前に回すとガイドは右に、向こう側に回すとガイドは左に移動します。
❹折り山をガイドにあてながらぬいます。
❺ぬい終わりましたら、布を返します。

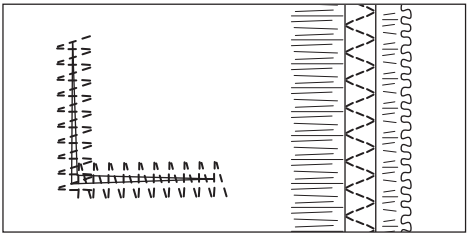




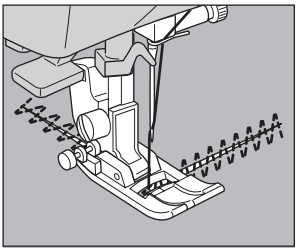
点線ジグザグぬい (つくろいぬい)



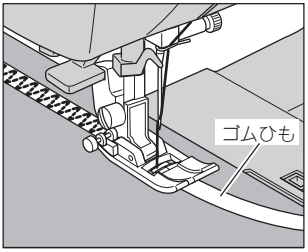
やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひものぬい付けなどに利用します。



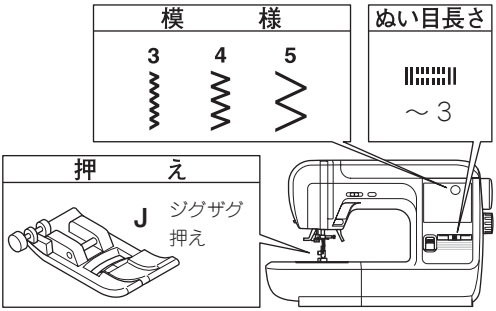
●つくろいぬい
ぬい目長さをこまかくしてぬいます。



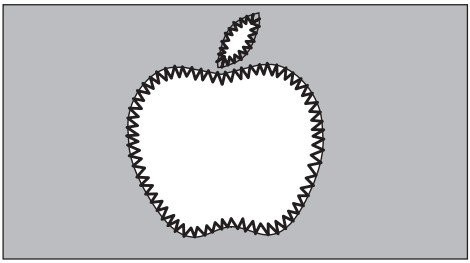
●ゴムひも付け
ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。



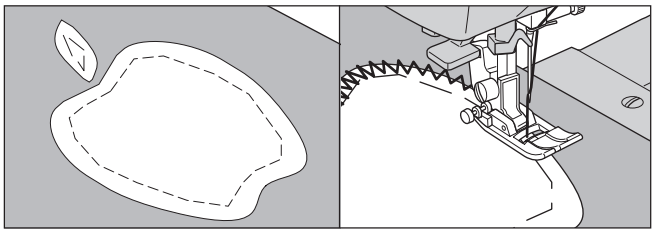
アップリケ



市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。



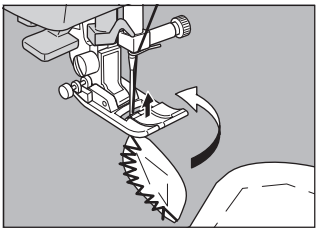
❶アップリケ布を止めます。 ❷ アップリケの布はしをたち目かがりと同じ要領でぬいつけます。



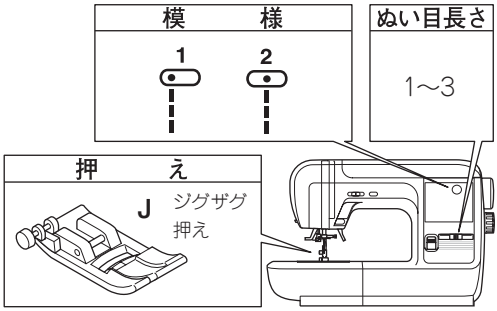
のりづけまたはしつけをします。

カーブの強いものは、小さいジグザグでぬいます。

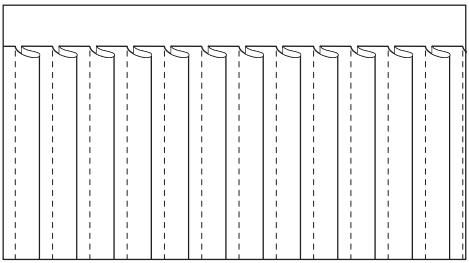
●急な角度をぬう場合
布はしに針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。



ピンタック



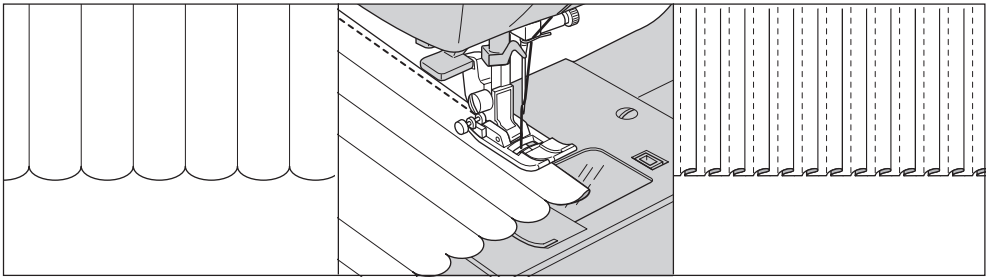
ブラウスなどの装飾に使います。



❶アイロンでピンタックの折り山を整えます。

❷折り山を伸ばさないようにしながら、ピンタックをぬいます。

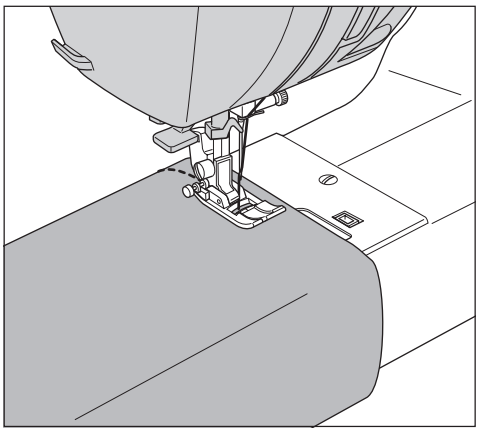
❸アイロンで片側に倒します。



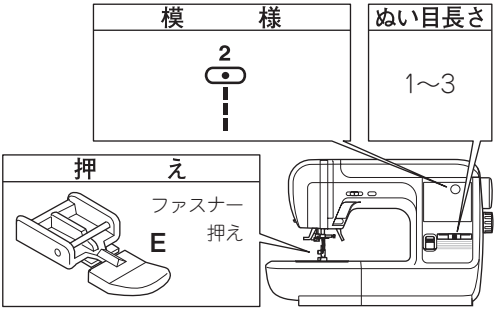
フリーアームぬい

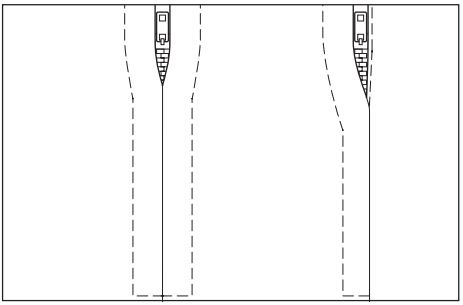
補助テーブルを取りはずすだけでフリーアームミシンになります。
袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

- 補助テーブルの取りはずし方は 6 ページを参照ください。
- まつりぬいは23ページを参照ください。



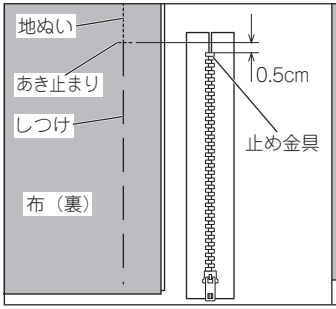
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）





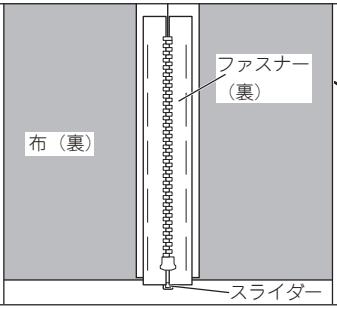
■つき合わせ

❶中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。



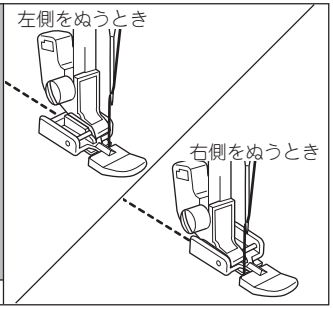
あき部分はしつけをします。

❷ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。



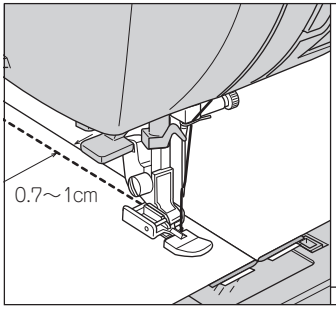
ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

❸ファスナー押えを取り付けます。



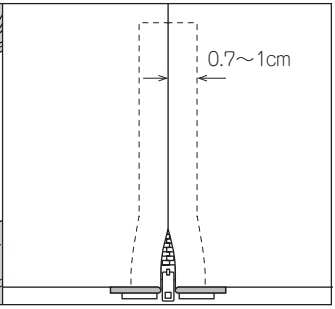
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

❹ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。



布の合わせ目から0.7〜1cm はなしてぬいます。

❺あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。



右側も同様に0.7〜1cm はなしてぬいます。

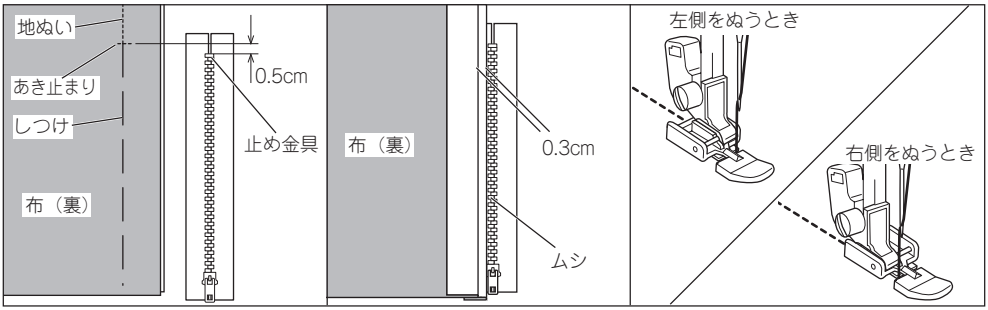
⚠注意：ケガ防止のために；
ファスナー押えは、必ず模様（2）だけにお使いください。ほかの模様では、針が押えにあたり危険です。

■脇あき

❶中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

❷ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。

❸ファスナー押えを取り付けます。



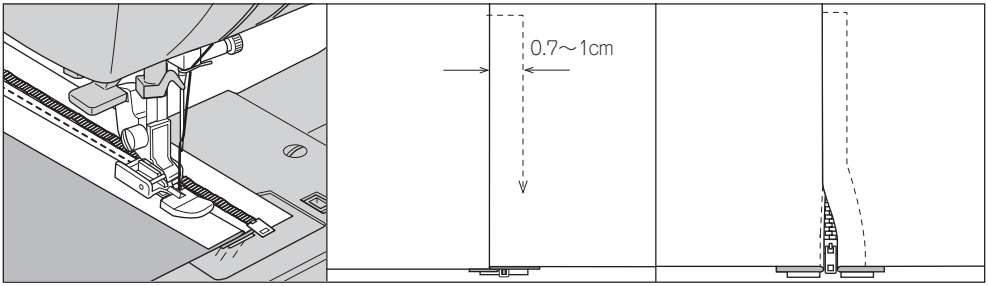
あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

❹ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

❺上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。

❻スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

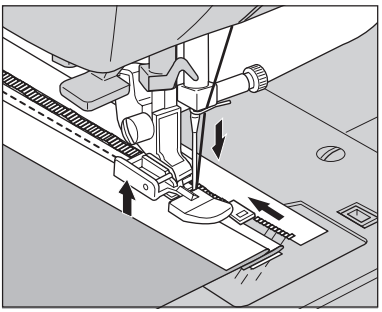


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

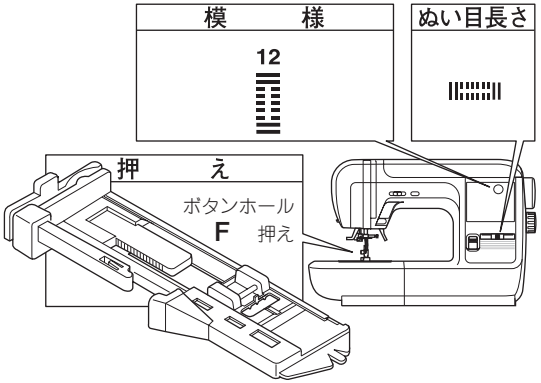
右側は、布の折り目から0.7〜1cmはなしてぬいます。

●スライダーをよけてぬうには：

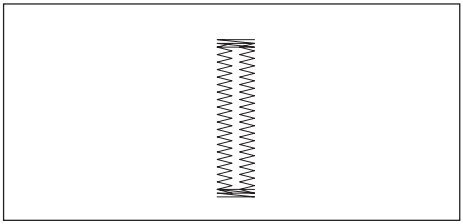
1. スライダーの手前でミシンを止めます。
2. 針を下げて布に刺します。
3. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
4. 押えを下げてぬい続けます。



ボタンホールぬい

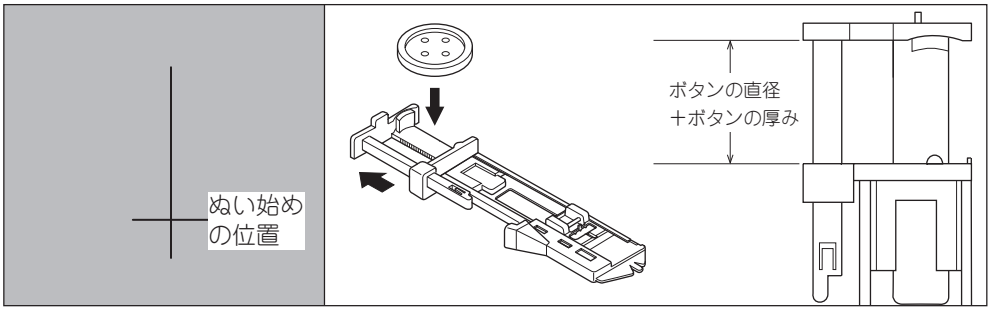


ぬい目長さ調節つまみを0と1の間の“ ”マークの範囲内で調節しながら布地にあったぬい目が得られるように、ためしぬいをしてください。



❶布地のボタンホールをぬう位置に印をつけます。

❷ボタンを押えの台にセットします。

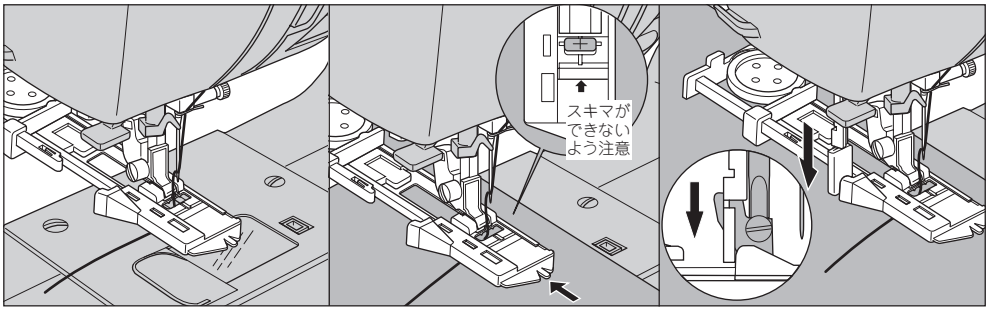


● **台にボタンがのらないとき**
台の幅が「ボタンの直径＋ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

❸上糸を押えの穴に通し、左側に出しておきます。

❹布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。

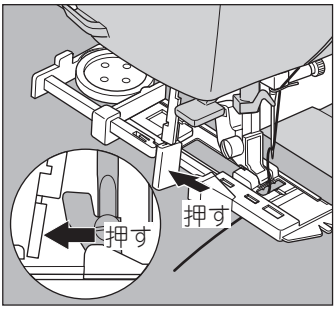
❺ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。



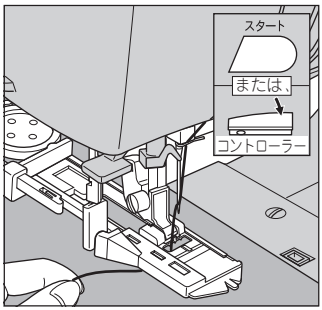
下糸を引き上げているときは、下糸も左側に出しておきます。

ご注意:ボタンホールレバーが下がっていなかったり、ボタンホール押えの枠と押えの間にスキマがあると、お知らせモニターが点灯し、スタートしません。
レバーをきちんと下げ、押えの枠を一番向こう側に戻してください。

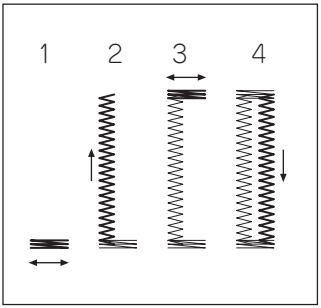
❻ ボタンホールレバーをカチッと音がするまで後ろに押します。



❼ 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。



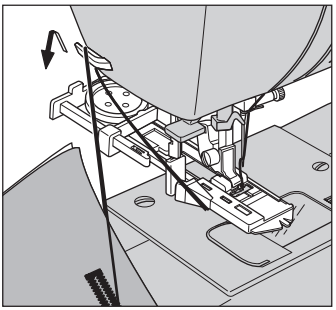
❽ 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。



ご注意:押さないと、正しくぬえません。

ぬい終わると自動的に止まり、押え上げレバーのお知らせモニターが点滅します。

❾ 押えを上げ、糸を切ります。



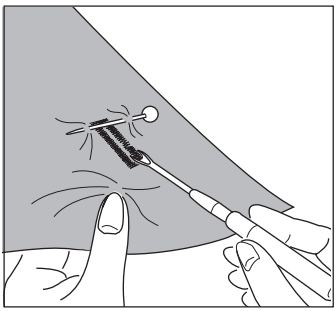
お知らせ

ぬいを途中でやめて、再スタートすると、ミシンは、ボタンホールの続きをぬいます。
もう一度ボタンホールの最初からぬうには、その前のボタンホールを、最後までぬいきってください。（押え上げレバーのお知らせモニターが点滅します。）

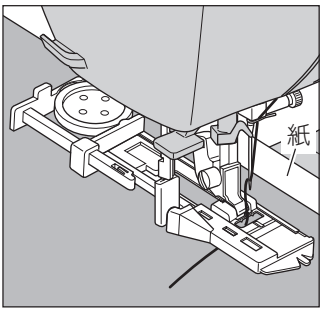
ぬい終わりましたら、

ボタンホールレバーを上げて戻します。
ぬったボタンホールの下糸を引いて上糸を布の裏側に出し、上糸と下糸を結びます。
ぬい糸を切らないように注意して、シームリッパーで穴を切り開きます。このとき、マチ針を刺しておきますと切りすぎることがありません。

● 伸縮性のある布地の場合裏に紙などをしいてぬいます。ぬい終わったら、紙を取り除きます。

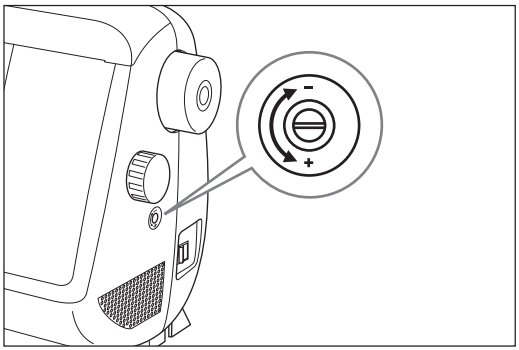


⚠ 注意：ケガ防止のために；
シームリッパーで、穴を開く時、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべった時ケガをする恐れがあります。

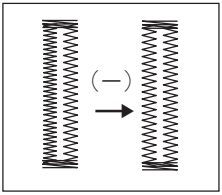


模様の形の調整

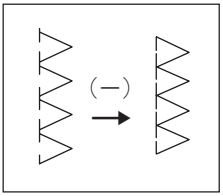
布地の種類や厚さなど、ぬうときの条件によっては、模様の形がくずれてしまう場合があります。
ボタンホールや伸縮模様をぬっているときに形がくずれるようでしたら、バランス調整ネジを回してきれいな模様が得られるように調整してください。



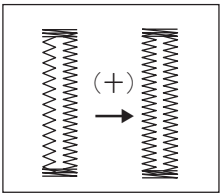
ボタンホール
右側の列があらいとき、ネジを（－）に回します。



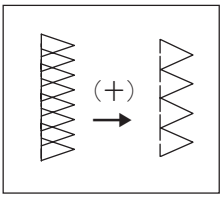
伸縮模様
右の図のようなときは、ネジを（－）に回します。



左側の列があらいとき、ネジを（＋）に回します。



右の図のようなときは、ネジを（＋）に回します。



ミシンの仕様

定格電圧	100 V
消費電力	60 W
周波数	50Hz/60Hz
ランプ	白色LED
寸法	幅：439 mm × 高さ：287 mm × 奥行き：195 mm
重量	8.0 kg

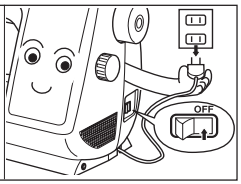
ミシンのお手入れ

糸くずやほこりがたまると、ぬい調子を悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

● **お知らせ**

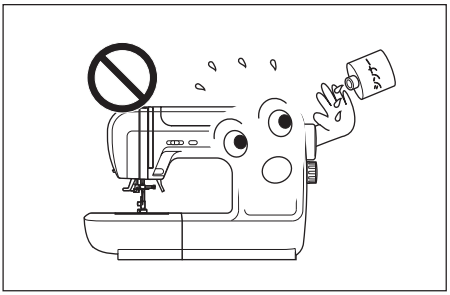
このミシンのランプには、長寿命のLEDランプを使用しています。
もし、ランプが切れた場合には、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

⚠警告；感電、ケガ防止のために；
お手入れの際は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。



■ミシン表面の掃除

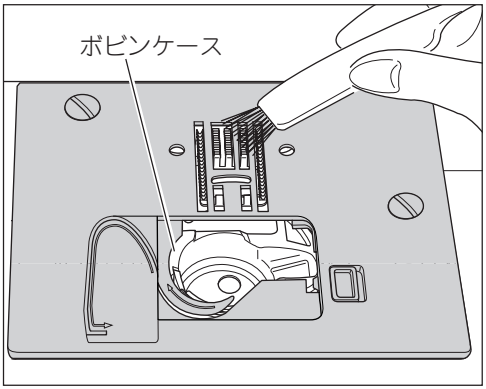
やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。
シンナーやベンジンなどでふかないでください。



■ ボビンケースの掃除

ボビンカバーとボビンを取りはずし、ブラシなどで掃除してください。

● 外がまやボビンケースには、油をささないでください。

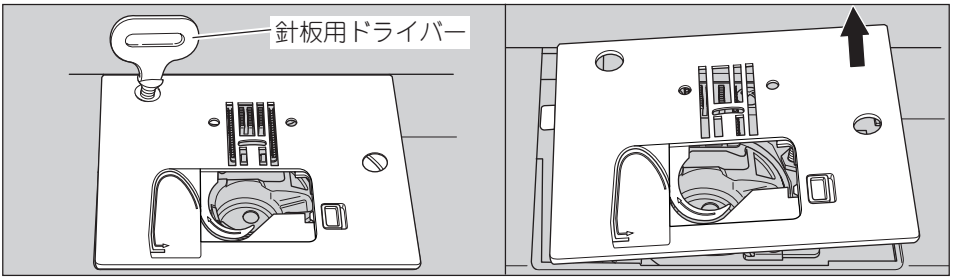


■ 外がまと送り歯の掃除

定期的に針板を外して、中の外がまや送り歯を掃除してください。

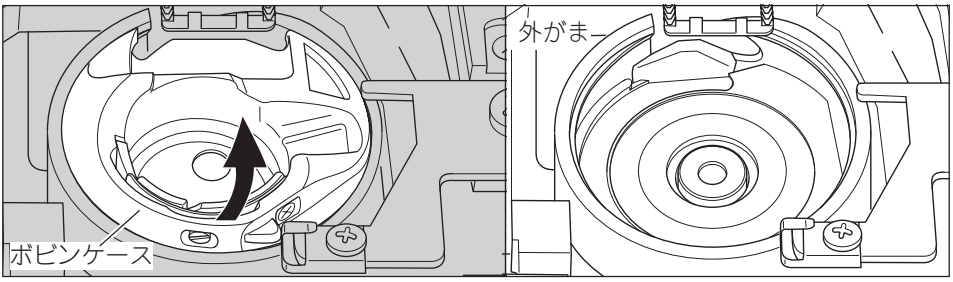
❶ 針と押えホルダーを取りはずします。
ボビンカバーとボビンを取りはずします。
針板止ネジ2本を外します。

❷ 針板の右側を持ち上げて、針板を取りはずします。



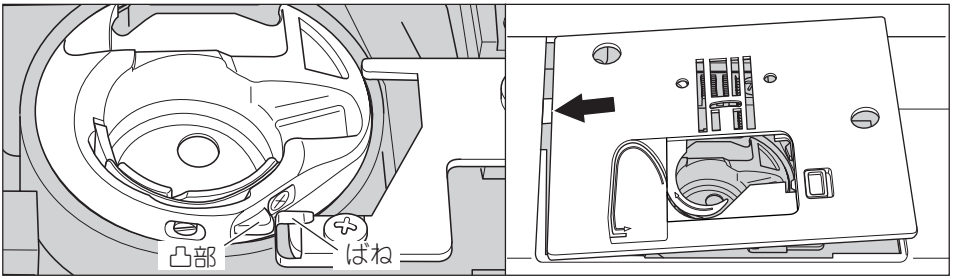
❸ ボビンケースの手前を上に持ち上げて取り出します。

❹ 外がまと送り歯のまわりを掃除します。
●掃除機を使うときれいになります。
ボビンケースのよごれはかわいた布でかるくふき取ります。



❺ ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのばねに当たるようにします。

❻ 針板左側のツメをミシン本体に差し込んでから、針板止ネジを取り付けます。



こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	糸のかけ方がまちがっている ボビンケースに糸がからまっている 針の取りつけ方がまちがっている 糸調子が強すぎる 布地に対して糸が弱すぎる	正しくかけ直します からんだ糸を取りのぞき掃除します 正しくつけ直します 適正な強さに調整します 布地と糸、針の関係を合わせます	14 33 11 19 11
下糸が切れる	ボビンのセットがまちがっている ボビンケースに糸がからまっている 外がまにゴミがたまっている	正しくセットし直します からんだ糸を取りのぞき掃除します 掃除します	13 33 33
ぬい目がとぶ	針の取りつけ方がまちがっている 針が曲がっているか、先がつぶれている 布地に対して糸と針が合っていない	正しくつけ直します 針を取りかえます 布地と糸、針の関係を合わせます	11 11 11
ぬい目にしわがよる	糸のかけ方がまちがっている ボビンのセットがまちがっている 針の先がつぶれている 糸調子が強すぎる	正しくかけ直します 正しくセットし直します 針を取りかえます 適正な強さに調整します	14 13 11 19
ぬい目に輪ができる	ボビンのセットがまちがっている 糸のかけ方がまちがっている 糸調子がつり合っていない	正しくセットし直します 正しくかけ直します 適正な強さに調整します	13 14 19
模様がくずれる	模様に対して押えが合っていない バランスが合っていない 糸調子がつり合っていない	模様に合った押えを取りつけます バランス調整ネジで調整します 適正な強さに調整します	20〜 30 19
糸通しができない	針が上に上がっていない 針の取りつけ方がまちがっている 針が曲がっている	針上下ボタンで針を上に上げます 正しくつけ直します 針を取りかえます	8, 15 11 11
布地を送らない	ぬい目長さが布地に合っていない 送り歯にほこりがかたまっている	ぬい目長さを調整します 掃除します	9 33
針が折れる	布地を無理に引っ張っている 模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている） 針の取りつけ方がまちがっているか、しめ方がゆるい 布に対して針が細すぎる	手は布地にそえるだけにします 模様に合った押えを取りつけます 正しくつけ直します 布地と糸、針の関係を合わせます	16 20〜 11 11
回転が重く音が高い	外がまや送り歯にゴミがたまっている	針板をはずして掃除します	33
ミシンが動かない	電源プラグの差し込みが不十分である 電源スイッチが入っていない フットコントローラーが取り付けてある 糸巻き軸が右へ押されている 押えが上がっている	しっかり差し込みます スイッチを入れます コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします 左へもどします 押えを下げます	7 7 7 12 8

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（裏表紙参照）におたずねください。

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
イ　保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ　浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ　ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
ニ　ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
ホ　職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

お問い合わせまたはご相談先 (純正部品の購入方法)

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「お客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越しください。

株式会社 シンガーハッピージャパン
「お客様相談係」

〒110-0016　東京都台東区台東 2 丁目 9 番 5 号
TEL. 03-3837-1862　FAX. 03-3837-0072

* 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
* シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「お客様相談係」におたずねください。

●無料修理保証について

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から 1 カ年間）内に故障した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 無料修理保証をお受けいただくときは、ミシンを購入店へご持参またはご相談ください。

●無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「使用の手びき」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災等、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入後の移動または輸送によって、不調、故障または損傷したとき。
4. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
6. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
7. この保証書のご提示がなかったとき。
8. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
9. この保証書の字句の訂正または書き換え等をしたとき。
10. この保証書は日本国内に限り有効といたします。

●有料修理について

1. 上記の 1.〜10. に該当する場合、その他有料で修理をするときの費用は、別に定める必要部品代、出張費および技術料の合計額といたします。
2. 無料修理期間中にお客様のご依頼によって販売店が出張修理する場合は、別に定める出張費をいただきます。

●お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問い合わせください。
2. 「使用の手びき」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

SINGER®
シンガーミシン

ミ シ ン 保 証 書

機械本体がお客様の正常な使用状態で万一故障した
場合は、裏面記載の内容で無料修理を保証します。

型　　式		CE-51	機械番号	HFR
＊お買上げ日		年　月　日	保証期間	お買い上げ日より本体 1年
＊お客様	ご住所	〒　　TEL		
	フリガナ ご芳名	様		
＊販売店	住　所 店　名	〒 ㊞　TEL		

＊印欄に記入のない場合無効となります。必ず記入の有無をご確認ください。
もし、記入がない場合には、直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。
本書は、再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

〔保証責任者〕　株式会社 シンガーハッピージャパン
〒110-0016　東京都台東区台東 2 丁目 9 番 5 号
電話　03-3837-1865

® はTHE SINGER COMPANYの登録商標です。
34373 C2 CE-51